

第1回久慈地区新設高等学校統合検討会議 議事録

期日 令和5年6月7日(水)

時間 午後2時00分～午後3時00分

会場 岩手県立久慈東高等学校 視聴覚室

1 開会(学校教育室高校改革担当主任指導主事 小野寺一浩)

2 岩手県教育委員会挨拶(教育次長兼学校教育室長 坂本美知治)

令和7年度に久慈東高校と久慈工業高校の両校を閉校し、総合学科5学級、工業学科1学級を併置した6学級の新たな高校を設置する。久慈地域における専門教育の拠点校と位置づけ、地域や時代のニーズに応え得る教育環境を整えるべく準備を進めている。

両校の伝統や教育力を統合し、魅力的で特色ある学校にするため、忌憚のない御意見を頂戴し、建設的な議論をお願いしたい。

3 統合検討会議構成員紹介(学校教育室高校改革担当主任指導主事 小野寺一浩)

4 経過報告(学校教育室特命参事兼高校改革課長 安齊和男)

- 平成28年「新たな県立高等学校再編計画」策定。地方創生に向けた取組の推移や入学者の状況等の検証を行い、時期について検討。令和3年度まで統合の判断を延期していたが、令和4年度に、令和7年度を目途に両校を閉校のうえ統合し、久慈地域の専門教育の拠点となる高校を新たに設置することを判断した。
- 令和4年9月に両校の管理職、11月に各校教職員を対象に説明会を開催した。
- 令和5年1月に同窓会やPTAを対象とした説明会を開催した。
- 令和5年3月以降、両校の職員によるワーキンググループを二度開催した。
- 両校を閉校のうえ統合し、総合学科5学級、工業学科1学級を併置する1学年6学級の新たな学校を令和7年度を目途に設置する。また、工業学科による複数の工業の学びと総合学科の多様な学びを維持し、両校の校舎を活用するべく校舎制での運用を予定している。
- 年度内を目途に、検討会議において校名や校章、校歌、学科の学びなど、統合新設校の根幹となる部分について検討し、細部については、統合準備委員会において検討を進めることとしている。
- 令和6年10月に条例改正を行い、令和7年4月に統合新設校が開校するスケジュールである。

5 座長及び副座長の選出(学校教育室高校改革担当主任指導主事 小野寺一浩)

資料3ページ「久慈地区新設高等学校統合検討会議設置運営要綱」「第7 職の設置」により、座長及び副座長を統合関係校校長から選出。

座長 岩手県立久慈東高等学校校長 佐々木寛

副座長 岩手県立久慈工業高等学校校長 水野扶佐史

6 協議（議長 座長 佐々木寛）

（1）協議事項1 久慈地区新設高等学校統合検討会議設置運営要綱（案）について

（久慈東高等学校副校長 三浦幸哉）

- ・資料3～5ページを読み上げて提案。提案のとおり承認。

（2）協議事項2 主な検討事項（案）について

（久慈東高等学校副校長 三浦幸哉）

- ・資料6ページを読み上げて提案。提案のとおり承認。

（3）協議事項3 統合検討会議に関するスケジュールと検討内容（案）について

（久慈東高等学校副校長 三浦幸哉）

- ・資料7ページを読み上げて提案。提案のとおり承認。

（4）協議事項4 久慈地区新設高等学校校名案の決め方について

（久慈東高等学校副校長 三浦幸哉）

- ・資料8ページを読み上げて提案。提案のとおり承認。
- ・（後構成員）案を募った後、検討する組織について、現時点で方向性が決まっているか。
〈回答〉（久慈東高等学校副校長 三浦幸哉）事務局でまとめ、一定の案を作り、その後検討会議に提案する。その案を教育委員会に報告するという形を想定している。
〈補足〉（学校教育室特命参事兼高校改革課長 安齊和男）資料5ページ参照。統合検討会議の下に、両校の教職員で構成される統合課題検討チームを設置している。ここで校名の絞り込み等、案の検討を行った上で、この統合検討会議で検討する運びとなる。

（5）協議事項5 久慈地区新設高等学校校舎制について

- ・資料9ページを読み上げて提案。提案のとおり承認。
- ・（久保構成員）PTAで説明を受けたときには、独立校舎型と実習移動型の二つの案を検討し、決定するという話を聞いていた。どのような経緯で、このような提案となったのかを伺いたい。
〈回答〉（久慈東高等学校副校長 三浦幸哉）これまで、両校職員によるワーキンググループで検討してきた。両校の施設を有効に活用するため、また、久慈東高校でホームルームとして使用可能な教室数が不足しているため、令和7年度の統合に当たっては、独立校舎型とするのが良いという提案となった。
- ・（久保構成員）令和7年度から入学する生徒について、二つの校舎間での交流が少なくなるのではないかと懸念がある。普段から生徒同士で交流できるような工夫を検討していただきたい。
〈回答〉（久慈東高等学校副校長 三浦幸哉）現段階では、教室を確保することが難しいことから、令和7年度の統合については独立校舎型として進める。しかし、今後様々な変化も見込まれるため、将来的に検討も考えられる。
〈補足〉（学校教育室特命参事兼高校改革課長 安齊和男）独立校舎型で交流ができない

ことへの危惧ということで、宮古商工高校の例を紹介する。コロナ禍もあり、初めは交流の機会を持つことができなかったが、交流の機会を増やしてほしいという生徒の声を受け、様々検討し、工夫をし始めているところである。今後、様々検討するとともに、情報提供や支援をしていきたい。

(6) 協議事項6 その他

- ・(澤口構成員) 昨今の生徒数の推移から、定員割れをしている状況も鑑みて、統合に際し学級数を減らすことも考えられるのではないか。

〈回答〉(学校教育室特命参事兼高校改革課長 安齊和男) これまで、工業学科1学級、総合学科5学級という計画に基づき、地域の方々にも説明をしてきている。令和7年度について、学級数を減らすことは考えていない。しかし、その後の状況によっては、検討をする可能性がある。

- ・(後構成員) 別冊資料「3 新設高等学校設置に向けた今後の見通し」に令和6年8月に学科編制等の案を公表とある。工業学科について、現在の学科を継承発展的に一つの学科とするのか、あるいは新しい学科を設けることもありえるのか、方向性を伺いたい。

〈回答〉(学校教育室特命参事兼高校改革課長 安齊和男) どのような学科を設置するかについては、今後検討チームの中で検討していくこととしている。学科については学びの根幹に関わる部分のため、地域に求められる学び、生徒が必要としている学びを考慮しながら、検討チームで検討し、この統合検討会議で検討していきたいと考えている。

- ・(三上構成員) 受検生が志願する段階で、工業学科、総合学科を決めるのか。また、入学後、学科を変更することはできるのか。

〈回答〉(佐々木座長) 出願時点で工業学科、総合学科を選んだうえで受検する。入学後に、工業学科と総合学科の間で学科変更はできないものとしている。

7 その他

委員への連絡。今後の検討会議の日程調整の用紙を配付している。記入の上、後日事務局校にFAX等での報告をお願いしたい。(久慈東高等学校副校長 三浦幸哉)

8 閉会(久慈東高等学校副校長 三浦幸哉)

午後3時00分終了